

第123期 報告書

2014年4月1日 ▶ 2014年12月31日

CONTENTS

株主の皆様へ…1	財務諸表の概要…11
トピックス…5	株式の状況…13
領域別および製商品別の概況…7	会社の概要…14
研究開発の状況…9	



鳥居薬品株式会社

証券コード 4551



ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

第123期(2014年度)の経営成績につきましてご報告いたします。ご高覧頂きますようお願いいたします。

当社は今後とも「世界に通用する医薬品を通じて、お客様、株主、社会、社員に対する責任を果たすとともに、人々の健康に貢献する」という企業ミッションのもと、持続的成長の実現に向け、全社一丸となって取り組んでまいります。今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

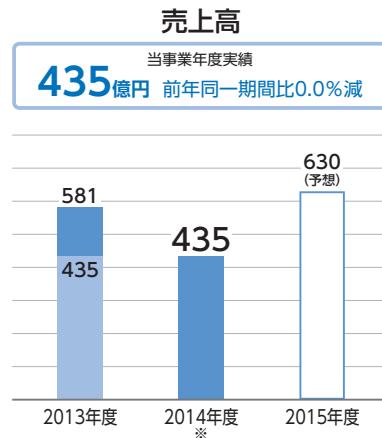
2015年3月

代表取締役社長 **高木正一郎**

決算 ハイライト

(単位：億円)

(■参考：前年同一期間
2013年4月1日~2013年12月31日)



※2014年度は決算期変更により、2014年4月1日から2014年12月31日までの9ヶ月間となっておりますので、参考として前年同一期間(2013年4月1日から2013年12月31日まで)との比較を記載しております。

2014年度の業績

医薬品業界を取り巻く事業環境は、後発医薬品の使用促進策等の医療費適正化に向けた医療制度改革の推進により、引き続き厳しいものとなりました。

このような状況の下、当社におきましては、領域別製品別プロモーションの徹底、製品のライフサイクルマネジメントの強化を図ることにより、シェアの維持・拡大に努めるとともに、2014年5月に販売を開始した「リオナ錠(高リン血症治療剤)」、2014年10月に販売を開始した「シダトレンスギ花粉舌下液(減感作療法(アレルギー免疫療法)薬)」の市場への早期浸透に注力いたしました。

売上高は、消費税増税前の一時的な需要増に伴う反動減に加え、薬価改定の影響がありましたが、「リオナ錠」の販売開始、「スタリビルド配合錠(抗HIV薬)」の伸長等により435億円と前年同一期間と同程度となりました。

費用面におきましては、売上原価は主に販売品目の構成が変化したことにより205億円と前年同一期間に比べ11億円増加しましたが、販売費及び一般管理費は研究開発費が減少したこと等により188億円と前年同一期間に比べ11億円減少しました。

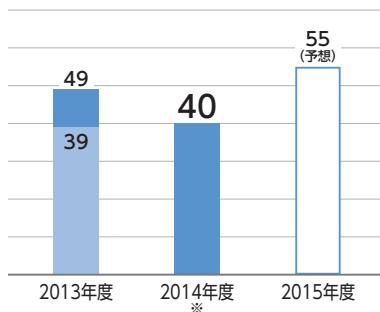
以上の結果、営業利益40億円、経常利益41億円、当期純利益24億円と、各利益とも前年同一期間と同程度となりました。

また、研究開発の面では、スギ花粉症を対象とした減感作療法(アレルギー免疫療法)薬「TO-206(舌下錠)」の第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験を開始する等の進展がありました。(研究開発に関する詳細はP.9～P.10「研究開発の状況」をご覧ください。)なお、当事業年度の研究開発費の総額は34億円となりました。

Financial Highlights

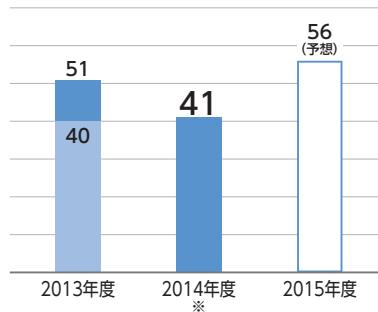
営業利益

当事業年度実績
40億円 前年同一期間比1.1%増



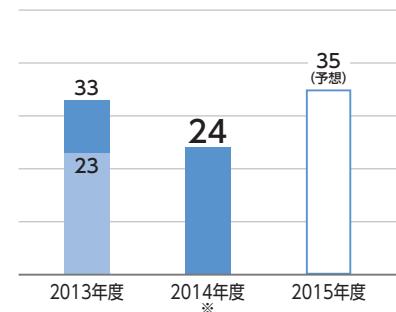
経常利益

当事業年度実績
41億円 前年同一期間比1.1%増



当期純利益

当事業年度実績
24億円 前年同一期間比1.7%増



2015年度の見通し

当社は、今後の持続的成長を確かなものとするため、2013年度から2015年度までの3ヶ年の中期経営計画を策定(2013年4月25日公表)し取り組みを進めております。その間の研究開発の進展、新薬の発売等、ここまで順調に進捗しておりますが、2015年度はいよいよ中期経営計画の最終年度となります。

当社を取り巻く事業環境は、医療費適正化に向けた医療制度改革の推進、競合品を有する製薬企業との競争の激化等により、今後ますます厳しくなるものと予想しております。

このような状況の下、当社におきましては、重点領域である「腎・透析領域」「皮膚・アレルギー領域」「HIV領域」における既存製品のシェアの維持・拡大による業績向上を目指すとともに、「リオナ錠」および「シダトレン スギ花粉舌下液」の市

場への早期浸透に引き続き注力し、より一層の事業成長を図ってまいります。

また、今後のさらなる成長に向けて新規販売品・開発品の導入および、アレルギー領域の研究開発を推進してまいります。

現時点における2015年度の見通しにつきましては、売上高は「リオナ錠」「シダトレン スギ花粉舌下液」の伸長等により630億円と増加する見込みです。利益面では、売上原価が増加するとともに、人件費の増加や新製品に係るプロモーション費用等の増加により販売費及び一般管理費も増加しますが、営業利益が55億円、経常利益が56億円、当期純利益が35億円と各利益とも増加する見込みです。

なお、売上高、営業利益、当期純利益は中期経営計画で掲げた2015年度の経営目標から変更はありません。配当金に関しましても、中期経営計画の目標どおり、1株当たり年間

●2015年度業績予想

	参考※ 2014年1月~12月	2015年度 業績予想	増減額
売上高	580億円	630億円	+49億円
営業利益	50億円	55億円	+4億円
経常利益	51億円	56億円	+4億円
当期純利益	33億円	35億円	+1億円

※2014年度は決算期変更により、2014年4月1日から2014年12月31日までの9ヶ月間となっておりますので、2014年1月から3月までの3ヶ月間の実績に2014年4月から12月までの9ヶ月間の実績を加えた12ヶ月間の数値を参考として記載しております。

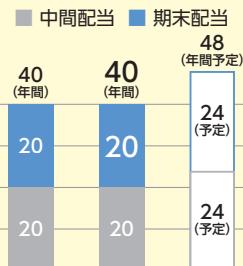
◆配当について

配当方針

当社は、株主の皆様への適正な利潤の還元を経営の重要課題の一つと認識し、剰余金の配当につきましては、安定的かつ継続的に実施することを基本方針としております。

上記基本方針の下、経営体質の強化や将来の事業展開等を目的とした中長期的な視野に立った投資等に備えることも勘案したうえで、株主の皆様へ安定的還元を行ってまいります。

1株当たり配当金 (単位:円)



2014年度期末配当支払開始日 3月26日

48円(中間配当金(基準日6月30日)24円、期末配当金(基準日12月31日)24円)を予定しております。

さらなるコンプライアンスの徹底

事業を通じてキャッシュフローを確保し続けるためには、厳しい経営環境下にあっても他社との競争に打ち勝っていく必要がありますが、その場合においても企業倫理にもとるような行動は厳に慎まなければなりません。特に、生命関連製品である医薬品を提供している製薬企業として、より高度な倫理観に則った行動が必要であることは言うまでもありません。

当社は、コンプライアンスの推進を重要な経営課題の一つとして認識し、その実効性を高めるためコンプライアンス体制に関する規則を整備し、取締役会に直結する機関として社長を委員長とするコンプライアンス委員会を

設置しておりますが、昨今の製薬業界におけるコンプライアンスに係る動向を踏まえ、コンプライアンス体制のより一層の充実・強化を図ることを目的に、新たに専任部署を二つ設置いたしました。

2014年8月に設置いたしましたメディカルコンプライアンス部は、臨床研究の実施や成果の利用も含めた当社製品に関する情報の審査・管理機能を担っております。また、2015年1月に設置いたしましたコンプライアンス推進部は、全社のコンプライアンス推進に関わる業務を所管し、法令等の遵守を徹底するほか、取締役および使用人が共有すべき価値観、倫理観および遵守すべき規準を記載した指針等を作成・配付のうえ積極的かつ継続的に教育・啓発活動を行ってまいります。

当社は、今後も法令および企業倫理を遵守し、従来にも増してコンプライアンス重視の経営を推進してまいります。

HIV/エイズ啓発活動への取り組み

当社は、「抗HIV薬」を扱っている製薬企業として、HIV/エイズとともに生きる人々への理解と支援を示す「レッドリボン」をシンボルとした運動に賛同し、毎年12月1日の「世界エイズデー」に合わせて、HIV/エイズに関する冊子の配布やレッドリボンピンバッジの着用推進など、全社員を対象とした啓発活動を行っております。

また社内だけでなく、2014年11月には、特に若年層にむけて、普段はなかなか知りえない、HIV/エイズに対しての正しい理解を深め、興味を持ってもらうことを目的としたメディア企画に賛同し、FM OSAKA、TOKYO FMで当社協賛特別番組『鳥居薬品 presents LOVE+RED』が放送されました。

レッドリボンはエイズに関して偏見をもたない、エイズとともに生きる人々を差別しないというメッセージです。当社では、今後もレッドリボン運動の実施などを通じて、HIV/エイズ啓発活動に取り組んでまいります。



レッドリボン

スギ花粉症を対象とした減感作療法(アレルギー免疫療法)薬 「シダトレン スギ花粉舌下液」新発売

当社は、減感作療法(アレルギー免疫療法)薬「シダトレン スギ花粉舌下液」(以下、「シダトレン」)を2014年10月8日に発売いたしました。

シダトレンは国内で初めて承認された舌下に投与するアレルギー免疫療法薬であり、従来の皮下注射によるアレルギー免疫療法と比べ、注射による痛みもなく自宅で治療ができるのが特徴です。

当社は、シダトレンがスギ花粉症治療の新たな選択肢として定着し、患者さんの治療に貢献できることを期待しております。

<アレルギー免疫療法について>

アレルギー免疫療法とは、アレルギー疾患の原因となるアレルギーを、低濃度・少量から投与し、徐々に増量・高濃度へ移行させ、アレルギーに対する過敏性を減少させる治療法で、以下のような特徴があります。

●アレルギー症状を軽減したり、長期にわたり症状をおさえる可能性がある治療法です。

- アレルギーを投与することから、アレルギー反応が起こる可能性があり、まれに重篤な症状が発現する可能性があります。
- 治療前に、症状がアレルギーによるものかの確定診断が必要です。
- 治療は長期間(3~5年)かかります。
- すべての患者さんに効果が期待できるわけではありません。

特に舌下免疫療法は、患者さんが自宅で毎日服薬を続ける治療であるため、起こりうる副作用やその際の対応も含め、患者さんご自身の治療法に関する十分なご理解が重要になります。

当社では、アレルギー免疫療法に関する正確な情報の普及のため、一般向けウェブサイト「トリーさんのアレルギー免疫療法ナビ」を開設しております。(「トリーさんのアレルギー免疫療法ナビ」の情報はP.6をご覧ください。)



シダトレン スギ花粉舌下液 Q&A



Q 名前の由来は？

A 日本スギを表すJapanese cedar (ジャパニーズ シダー)と、免疫の「寛容」を表すtolerance(トレランス)から、スギ花粉に対する免疫反応を寛容に導くという意味合いで、CEDARTOLEN(シダトレン)と命名しました。

Q どこで処方してもらえるの？



A アレルゲン免疫療法は、アレルギーの原因物質そのものを投与する治療法であり、全身性の副作用が発現する可能性があります。そのため、シダトレンは舌下投与によるアレルゲン免疫療法に関する十分な知識・経験をもつ医師によってのみ処方できる薬剤になっています。2015年1月現在、全国で約5,000名の医師が処方可能医師として登録されています。2015年4月上旬には、一般向けウェブサイト(アレルゲン免疫療法専門サイト)「トリーさんのアレルゲン免疫療法ナビ」上で、舌下免疫療法について相談できる医療機関を検索していただけるよう準備を進めています。

Q 3種類あるのはなぜ？



A シダトレンには、200JAU/mLボトル、2,000JAU/mLボトル、2,000JAU/mLパックの3種類があります。JAU/mLとは「Japanese Allergy Units/mL」という日本アレルギー学会により設定された国内独自のアレルギー活性の単位で、数字が大きいほど高濃度となります。アレルゲン免疫療法は低濃度・少量から徐々に増量・高濃度へ移行させる治療法であり、シダトレンによる治療に際しては200JAU/mLボトル、2,000JAU/mLボトルを用いて、プッシュ数で服用量を調整しながら、2週間かけて徐々に増量します。3週目以降は2,000JAU/mLパックを用いて毎日同じ量を服用します。



200JAU/mLボトル



2,000JAU/mLボトル



2,000JAU/mLパック

アレルゲン免疫療法専門サイト
「トリーさんのアレルゲン免疫療法ナビ」

当社では、アレルゲン免疫療法に関する正確な情報の普及のため、一般向けウェブサイトを開設しております。当ウェブサイトでは、花粉症の症状やメカニズムの説明から、その治療法であるアレルゲン免疫療法についてわかりやすく説明しております。また、2015年4月上旬には、当ウェブサイト上で舌下免疫療法について相談できる医療機関を検索していただけるようになる予定です。アレルゲン免疫療法について詳しくお知りになりたい方は、ぜひご覧ください。

TOPページ

<http://www.torii-alg.jp>

もっと知りたいスギ花粉症



アレルゲン免疫療法を知ろう

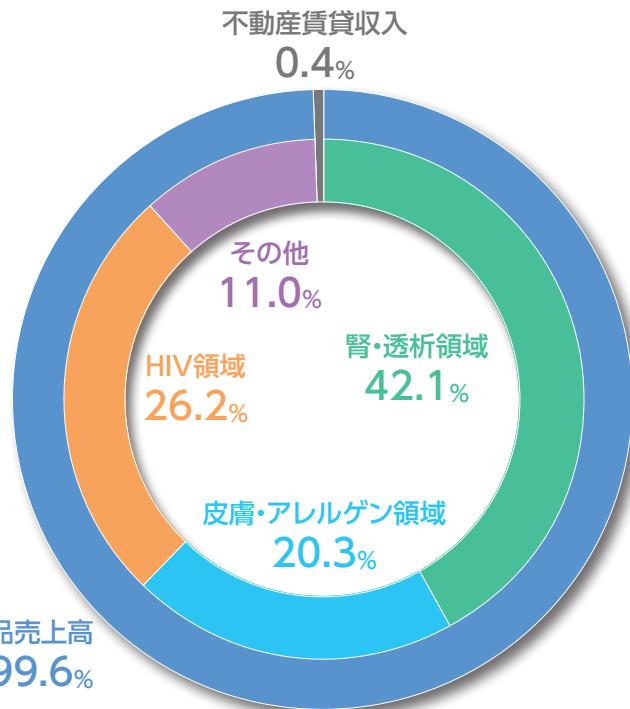


領域別および製商品別の概況

領域別売上高

(単位：百万円)

	前年同一期間 (2013年4月1日~2013年12月31日)	2014年度※
売上高	43,524	43,504
製商品売上高	43,356	43,334
腎・透析領域	17,583	18,307
皮膚・アレルギー領域	9,659	8,836
HIV領域	10,952	11,421
その他	5,161	4,768
不動産賃貸収入	168	170



主要製品・商品のご紹介

レミッチカプセル

経口そう痒症改善剤



血液透析患者の既存治療抵抗性の痒み(従来の止痒薬では効き目が不十分な痒み)を改善する薬剤です。

注射用フサン

蛋白分解酵素阻害剤



急性肺炎や汎発性血管内血液凝固症を治療する薬剤です。また、血液透析等の血液浄化療法を施行する際に回路内で血液を固まらないようにする薬剤でもあります。

リオナ錠

高リン血症治療剤



体内へのリンの吸収を抑制することにより、慢性腎臓病患者(血液・腹膜透析患者、保存期腎不全患者)の高リン血症を改善する薬剤です。

※2014年度は決算期変更により、2014年4月1日から2014年12月31日までの9ヶ月間となっておりますので、参考として前年同一期間（2013年4月1日から2013年12月31日まで）との比較を記載しております。

製商品別売上高

(単位：百万円)

品名	前年同一期間 (2013年4月1日～2013年12月31日)	2014年度※	
レミッチカプセル	経口そう痒症改善剤 腎・透析領域	10,612	10,563
ツルバダ配合錠	抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) HIV領域	9,940	9,229
アンテベート※ ¹	外用副腎皮質ホルモン剤 皮膚・アレルギー領域	5,535	5,140
注射用フサン※ ¹	蛋白分解酵素阻害剤 腎・透析領域	3,288	2,768
スタリビルド配合錠※ ²	抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) HIV領域	696	1,942
リオナ錠※ ³	高リン血症治療剤 腎・透析領域	—	1,811
ケイキサレート※ ¹	高カリウム血症改善剤 腎・透析領域	1,762	1,737
ビオスリー	活性生菌製剤(整腸剤) その他	1,563	1,619
ユリノーム錠※ ¹	尿酸排泄薬(高尿酸血症治療剤) 腎・透析領域	1,919	1,425
ドボネックス軟膏	尋常性乾癬治療剤 皮膚・アレルギー領域	1,426	1,189
ゼフナート	抗真菌薬 皮膚・アレルギー領域	1,309	1,146
ロコイド※ ¹	外用副腎皮質ホルモン剤 皮膚・アレルギー領域	1,064	1,011
マグセント	切迫早産における子宮収縮抑制剤・子癲の発症抑制・治療剤 その他	1,018	961
その他製商品		3,218	2,786

※¹ 自社品

※² 「スタリビルド配合錠」は、2013年5月から販売しております。

※³ 「リオナ錠」は、2014年5月から販売しております。

アンテベート

外用副腎皮質ホルモン剤



アトピー性皮膚炎や接触皮膚炎等の皮膚疾患に対して炎症を抑えることによって症状を改善する薬剤です。

ツルバダ配合錠

抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬)



HIV逆転写酵素を特異的に阻害することによりHIVの増殖を阻害する薬剤です。

スタリビルド配合錠

抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬)



4成分を配合した抗HIV薬で、国内で初めて、他剤と併用しない1日1回1錠の服薬でHIV感染症の治療が可能となります。HIV-1のインテグラーゼおよび逆転写酵素の活性を阻害し、感染力のあるウイルスの増殖を抑える薬剤です。

研究開発の状況

主要な研究開発の状況につきましては、右図表のとおりとなっております。

前回(第122期報告書)ご報告以降の変更点としましては、ALK-Abelló A/S (以下、ALK社)から導入した室内塵ダニアレルギー疾患を対象とした減感作療法(アレルゲン免疫療法)薬「TO-204(注射剤)」、アレルゲン検査薬「TO-205」につきまして、2014年12月に製造販売承認を取得し発売に向けて準備中です。

また、同じくALK社から導入した室内塵ダニアレルギー疾患を対象とした減感作療法(アレルゲン免疫療法)薬「TO-203(舌下錠)」につきましては、2015年1月に室内塵ダニアレルギー性鼻炎を適応症として製造販売承認申請を実施した他、日本たばこ産業株式会社(以下、JT)と共同で開発を進めておりましたヒスタミン二塩酸塩製剤「JTE-350」につきましても、2014年12月にJTにより製造販売承認申請がなされました。

スギ花粉症を対象とした減感作療法(アレルゲン免疫療法)薬「TO-206(舌下錠)」につきましては、第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験を実施しております。



新薬ができるまで



新薬の候補物質が新薬として認められる確率は約3万分の1と言われており、専門家による厳格な審査を経て、国からの承認を受けてようやく医薬品として世に送り出すことができます。

主要な研究開発品 (2015年2月4日)

開発番号 [製品名]	予定適応症等
TO-203	室内塵ダニアレルギー疾患 (アレルギー性鼻炎) (減感作療法(アレルゲン免疫療法)薬) 室内塵ダニアレルギー疾患 (アレルギー性喘息) (減感作療法(アレルゲン免疫療法)薬)
TO-204 [治療用ダニアレルゲンエキス皮下注「トリイ」]	室内塵ダニアレルギー疾患 (喘息およびアレルギー性鼻炎) (減感作療法(アレルゲン免疫療法)薬)
TO-205 [スクラッチダニアレルゲンエキス「トリイ」]	アレルギー性疾患のアレルゲンの確認 (アレルゲン検査薬(室内塵ダニ))
TO-206	スギ花粉症 (減感作療法(アレルゲン免疫療法)薬)
JTE-350	アレルギー皮膚テスト実施時の陽性コントロール(ヒスタミン二塩酸塩製剤)

※ 厚生労働省主催の「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討

現在)

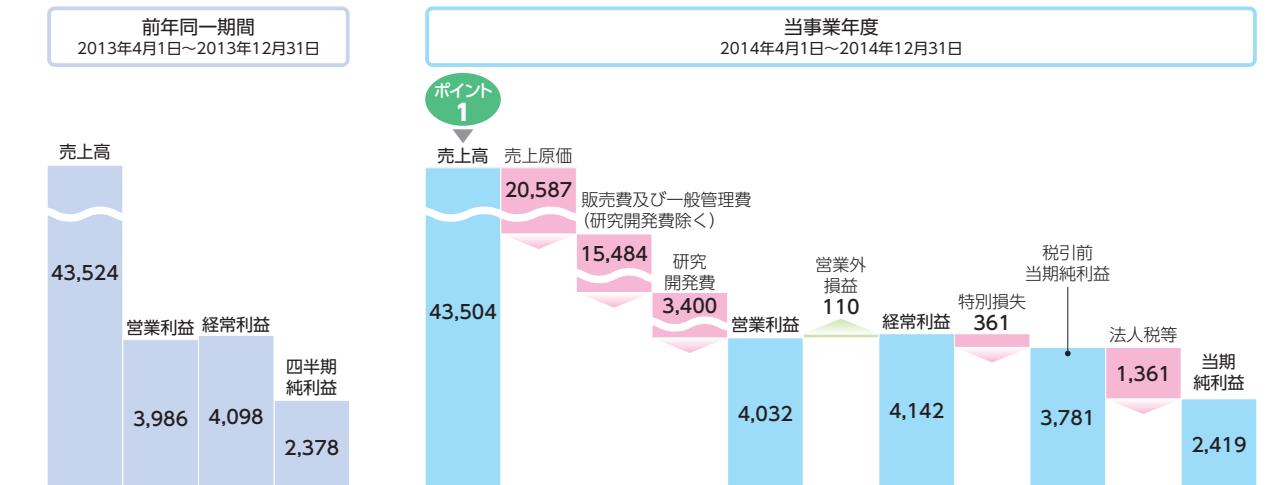
剤形等	開発段階 (国内)					備 考
	PhaseI	PhaseII	PhaseIII	申 請	承 認	
舌下錠				申 請		<ul style="list-style-type: none"> ● ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ● 自社開発 ● 2015年1月26日に製造販売承認申請
舌下錠	PhaseII/III					<ul style="list-style-type: none"> ● ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ● 自社開発
注射剤					承 認	<ul style="list-style-type: none"> ● ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ● 自社開発 ● 2014年12月26日に製造販売承認取得
注射剤					承 認	<ul style="list-style-type: none"> ● ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ● 自社開発 ● 2014年12月26日に製造販売承認取得
舌下錠	PhaseII/III					<ul style="list-style-type: none"> ● 自社開発
注射剤					申 請	<ul style="list-style-type: none"> ● ALK社と日本における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結 ● JTとの共同開発 ● JTが2014年12月22日に製造販売承認申請

会議における開発企業募集品であります。

財務諸表の概要

損益計算書の概要 (単位：百万円)

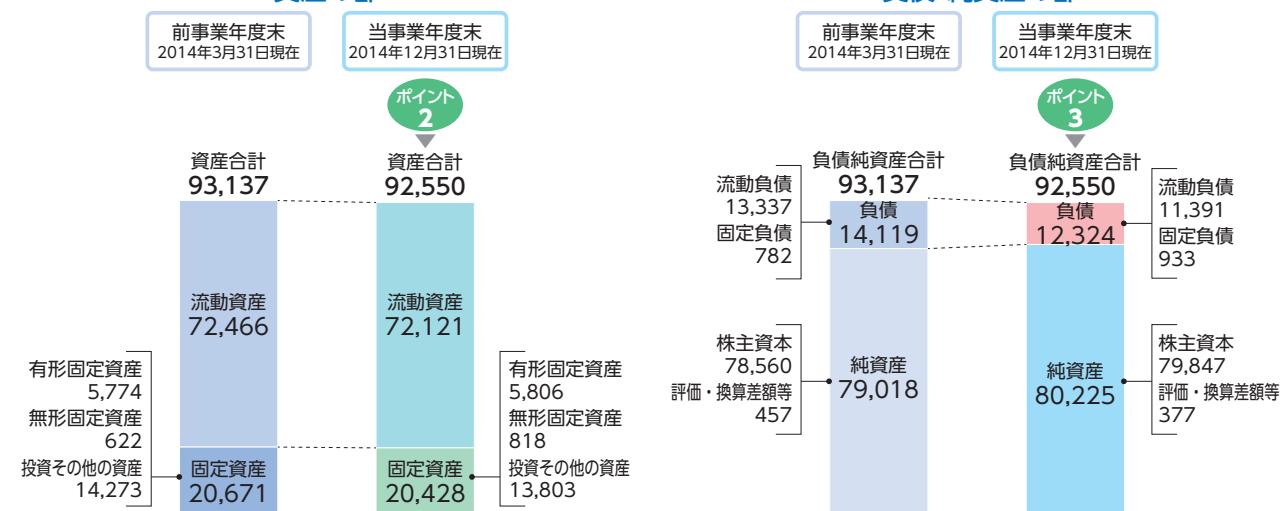
※2014年度は決算期変更により、2014年4月1日から2014年12月31日までの9ヶ月間となっておりますので、参考として前年同一期間(2013年4月1日から2013年12月31日まで)との比較を記載しております。



貸借対照表の概要 (単位：百万円)

資産の部

負債・純資産の部

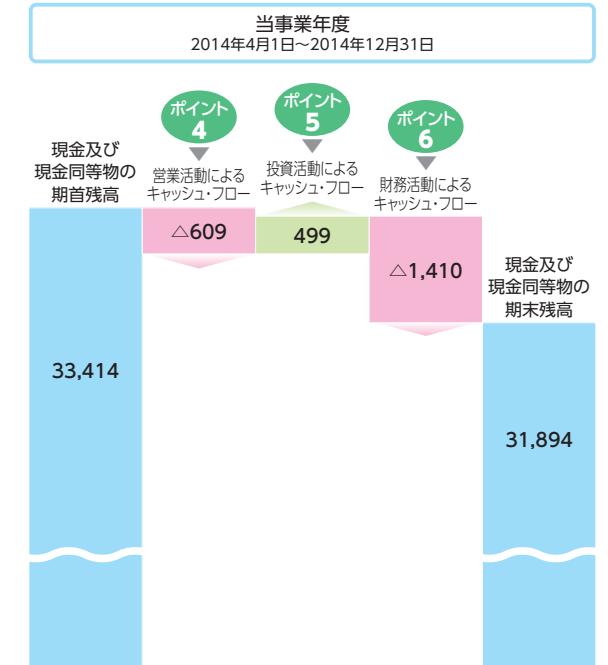


▶▶▶ 詳しい財務情報は当社IRサイトをご覧ください。

鳥居薬品 IR

検索

キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位: 百万円)



ポイント1 売上高の状況

売上高は、消費税増税前の一時的な需要増に伴う反動減に加え、薬価改定の影響がありましたが、「リオナ錠」の販売開始、「スタリビルド配合錠」の伸長等により前年同一期間と同程度となりました。(2014年度業績に関する詳細はP.2「2014年度の業績」をご覧ください。)

ポイント2 資産の状況

当事業年度末の総資産は、92,550百万円と前事業年度末に比べ587百万円(0.6%)減少しました。流動資産につきましては、現金及び預金が5,909百万円、商品及び製品が2,126百万円、売掛金が1,741百万円増加しましたが、キャッシュ・マネジメント・システム預託金が5,730百万円、有価証券が3,595百万円、繰延税金資産が998百万円減少したこと等により72,121百万円と前事業年度末に比べ344百万円(0.5%)減少しました。固定資産につきましては、長期前払費用が689百万円減少したこと等により20,428百万円と前事業年度末に比べ242百万円(1.2%)減少しました。

ポイント3 負債及び純資産の状況

負債につきましては、12,324百万円と前事業年度末に比べ1,794百万円(12.7%)減少しました。これは、未払金が1,203百万円、未払法人税等が929百万円減少したこと等によるものです。純資産につきましては、80,225百万円と前事業年度末に比べ1,206百万円(1.5%)増加しました。これは、剰余金の配当が1,132百万円、当期純利益が2,419百万円となったこと等によるものです。

ポイント4 営業活動によるキャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前当期純利益が3,781百万円、減価償却費が924百万円、長期前払費用の減少額が689百万円となりましたが、たな卸資産の増加額が2,107百万円、売上債権の増加額が1,734百万円、未払金の減少額が1,207百万円、法人税等の支払額が1,172百万円となったこと等により609百万円の支出となりました。

ポイント5 投資活動によるキャッシュ・フローの状況

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の取得による支出が3,110百万円、有形固定資産の取得による支出が555百万円となりましたが、有価証券の売却及び償還による収入が4,500百万円となったこと等により499百万円の収入となりました。

ポイント6 財務活動によるキャッシュ・フローの状況

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払額が1,132百万円となったことにより1,410百万円の支出となりました。

(2014年12月31日現在)

株式数

発行可能株式総数	54,000,000株
発行済株式総数	28,800,000株

株主数

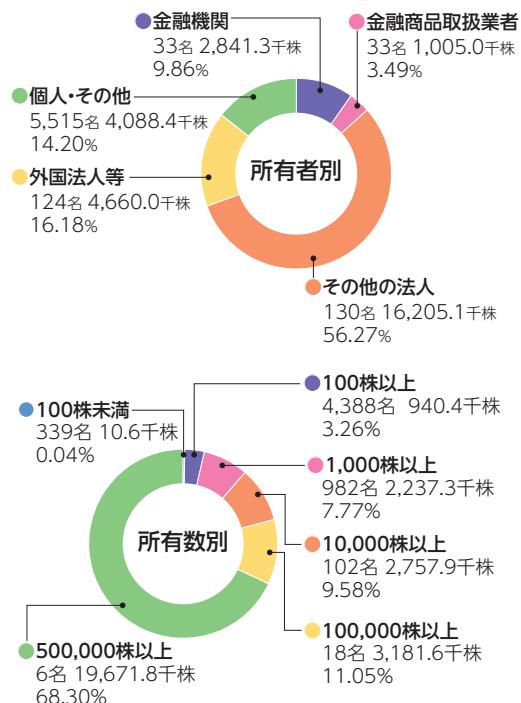
株主数 (単元未満株主を含む)	5,835名
-----------------	--------

大株主

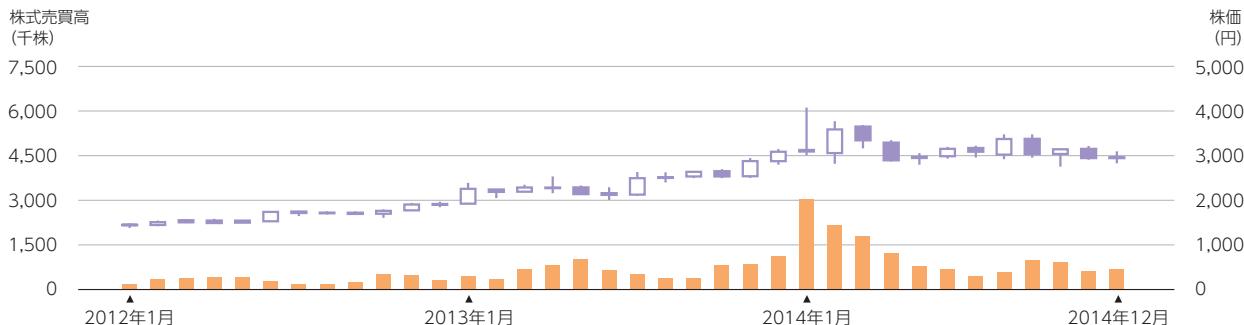
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本たばこ産業株式会社	15,398.8	53.46
ロイヤルバンクオブカナダトラストカンパニー(ケイマン)リミテッド	1,921.9	6.67
立花証券株式会社	748.8	2.60
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	558.1	1.93
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	544.2	1.88
株式会社三井住友銀行	340.8	1.18
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	283.1	0.98
鳥居薬品従業員持株会	275.5	0.95
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	211.1	0.73
株式会社みずほ銀行	210.0	0.72

(注)上記の他、当社が保有する自己株式数は500.0千株(持株比率1.73%)であります。

株式分布状況



株価および株式売買高の推移 (2012年1月~2014年12月)



会社概要

(2014年12月31日現在)

商号	鳥居薬品株式会社
設立	1921年(大正10年)11月1日
資本金	5,190百万円
主要な事業内容	医薬品の製造・販売
従業員数	1,047名 <small>(注)従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人数であります。</small>
本社	〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1 トリイ日本橋ビル TEL:03-3231-6811(代表)
主な事業所	札幌支店、仙台支店、北関東支店(高崎)、 南関東支店(さいたま)、東京支店、横浜支店、 名古屋支店、京都支店、大阪支店、神戸支店、 高松支店、広島支店、福岡支店、 南九州支店(熊本)、佐倉工場、 研究所(佐倉工場内)

役員

(2015年3月25日現在)

取締役・監査役

取締役会長	松尾 紀彦	取締役	假屋ゆう子
代表取締役社長	高木正一郎	取締役	角南 正記
専務取締役	籠橋 雄二	取締役	鳥養 雅夫
常務取締役	田村 明彦	常勤監査役	長 誠次
常務取締役	梅田 高弘	常勤監査役	古谷 幸友
		監査役	會澤 恒

執行役員

執行役員	林 秀岳	執行役員	太田 尚
執行役員	相川 由幸	執行役員	野田 優
執行役員	千葉 昌	執行役員	森崎 信也
執行役員	藤原 勝伸	執行役員	掛江 敦之

(注)1. 取締役 鳥養 雅夫は、社外取締役であります。

(注)2. 監査役 長 誠次、會澤 恒は社外監査役であります。

(注)3. 取締役 鳥養 雅夫、監査役 會澤 恒は東京証券取引所の規則に定める独立役員として同取引所に届け出ております。

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで <small>(2014年6月25日開催の第122回定時株主総会において、事業年度を従来4月1日から翌年3月31日までとしていたものから、上記に変更しております。ただし、第123期は、2014年4月1日から2014年12月31日までの9ヶ月間となります。)</small>
定時株主総会 基準日	毎年3月 定時株主総会・期末配当：毎年12月31日 中間配当：毎年6月30日(ただし、第123期は9月30日)
公告方法	日本経済新聞に掲載
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL：0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

住所変更、単元未満株式の 買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

◆ ホームページのご案内

当社ホームページの「株主・投資家の皆様へ」では、決算短信等のIR情報をご覧ください。

<http://www.torii.co.jp/ir/index.html>

TOPページ



鳥居薬品

検索

IRページ



将来に関する記述等についてのご注意

本資料に記載しております業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確実な要素を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。したがって、実際の業績等は、様々な要素により、これらの業績見通し等とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に関わらず、常に当社が、将来の見直しを見直すとは限りません。

なお、現時点において、実際の業績等に影響を与えるリスクや不確実な要素としては、以下のような事項を挙げることができます。(かかるリスクや不確実な要素はこれらの事項に限定されるものではありません。)

- 医薬品医療機器法その他の法令または規制の変化
- 副作用の発現
- 研究開発の遅延または中止
- 製商品の供給停止、回収
- 薬価の決定、改定
- 訴訟の提起



鳥居薬品株式会社

〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1 トリイ日本橋ビル

TEL 03-3231-6811 (代表)

